

年少組、第二保育期

— 満四歳から満五歳 —

生活訓練

第一週

夏休みが済んだ。子ぎも達は再び新しい興味を以て幼稚園に來る。その中に眞黒な顔をした子がゐる。蒼白い顔をした子がゐる。夏休みはいろいろの結果を子ぎも達に與へて、時をさすると思ひがけないこぎもあるのに驚かされたりする。特別な大病は已むを得ないこぎとして、たゞなんこぎもく瘦せて、顔色が悪くなつて、元氣のない子なんか、夏休みが却つて悪い結果を與へたこぎになる。世の中のこぎは、思ひ通りにのみゆかないものだ。

さて、さうした結果は別として、夏休みが子ぎもに與へる共通の結果は、さうもねんねえに歸らせるこぎだ。第一保育期にやつついた多少の規律習慣がくづれて、ゆるん

で、だらけて、萬事に不規律になるこぎである。但し、こいつて子ぎもを責める譯ではない。無理もない以上に、それでこそ夏休みであつたこぎ、大きな目にはほゝゑましくなる。この反對に、休暇あけに前よりも一段規律ものになり、見違えるやうにきちんこぎしたら、それは休みに自分の家に歸つてゐたのでなくて、入隊でもしてゐたのかも知れないのだ。規律こぎつたつて、不規律こぎつたつて、子ぎもの事である。大した差ではないかも知れない。先生が休みくせがついて、だるくつて、なまけてゐるのこぎは話が違ふであらう。だから、さうこぎやかましく螺旋ねじをしめつけなくてもよろしいさ。たゞそろこぎ、氣持をしやんこぎさせてゆくこぎが必要である。

遊び道具の出しつばなし、放りつばなし、これは子ぎもにいつもあることで、老人が碁を一局すませて、靜かに石を仕舞つて、さて一服ミいつた風にはゆかない。子ぎもだつて亂雑が好物ミいふ譯ではないが、次には又面白い遊びが待つてゐるこゝである。前の遊び道具を放げ出しておいで次の方へ馳けてゆく。さもありさうなこゝでもある。ただ、休み中に如何にもだらけ癖がついて、ぐすくミ、そこらを散らかしたまゝ、人に片づけさせやうミする風は、さうもそのまゝにして置けない。早くなほして、一應あたりまへのきまり、心まで引かへしてやらないミ、いつまでたつても、ぐづだら、だらぐづの横着をつづけるであらう。子ぎもは、あれでなか／＼横着なこゝろのあるものだから。九月上旬、何しろまだ相當暑い。さう／＼思ふやうには、子ぎももしつかりやれまい。先生の思ふやうに、にはゆかないのが、すべて生活訓練ミいふものであらう。

休暇あけの、折角の**新保育期**、子ぎもはするこゝはだらけてゐても、氣は勇んでゐる。そこで、何か、第一保育期になかつたこゝを、「こんざから」ミいふ新らしいかけ聲

つきで始めさせるのはいゝこゝである。第一保育期ミは進歩したこゝの、一寸した得意さを感じさせるものである。その一つミして、食後のうがひの**薬**(薬のぼつちりはいた水)を、今までは先生に注いでいたゞいたのを、こんざから自分で注がせるミいふのである。此の訓練の意味は何もうがひ薬に限つたこゝではない。何かしら新しいこゝミいふこゝろに興味があるのである。うがひも實は、休み中やめてゐたかも知れない。それを新しい興味で再び始めさせるこゝにもなる。

第二週

食事の作法。これは度々のこゝで、もう一々解説するこゝもない。こゝで此の事を擧げてあるのも、休暇後の半日保育が終つてお辨當が始まるからである。

みだりに草木を折り取らぬこゝ、之れも今更のこゝでもないが、休み中、山へゆき、海邊へゆき、相當自由に草木を折り取つて遊んだりした子もあらう。それを、幼稚園でやられてはいけなからの注意である。——さうも幼稚園ミいふこゝろは小うるさいこゝろだミ子ぎもは思ふかも知

れない。

ところで、草木を折り取らせないやうに、その理由をさういふかは一才問題になる。先生が折角く植ゑたのだから……。お金を出して植ゑさせたのだから……。公共のものだから……。草木が痛いさいふから……。草木が可愛さうだから……。まだくいろくあるかも知れない。それは、先生の御手柄次第のことで、これでなければならぬさいふこともないが、幼児の訓練としては、さて何んさいひませうかな。

第三週

登園の仕度をぐづぐずしないことさいふのは、幼稚園内

誘導保育

第一週

蟲の家

長い二ヶ月のお休みも過ぎて、愈々第二学期が始まる。

生活でなく、家庭生活であるが、夏休み後、一寸は興味が蘇つたが、又この頃少しだけ氣味にもなるさいふところから、心得さして話して置く注意である。

ところで、斯ういふ注意を一般的にした方がいゝか、或は御意見もあることであらう。なんなら、各々の家庭についてその様子をきいて、そんな子が無いのだつたら、勿論いらぬ注意である。一人二人なら、その子に個人的にやさしく注意したらいゝことでもあらう。しかし、實際はなかく多い。さうだつたら、皆に對して注意した方が効果があるさいふものである。

先生も、子供も、子供達の親までもが皆、久々に相會ふ事の嬉しさに、懐しさに、胸を躍らせながら、足をはつませながらやつて來るのである。併し、子供さ言ふものは何